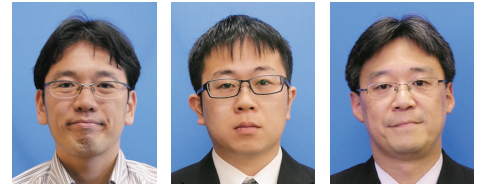


海外事例を踏まえた今後の事業評価の方向性の検討について



社会資本マネジメント研究センター
社会資本マネジメント研究室

主任研究官 山口 悟司 (博士(国際協力学)) 研究官 鈴木 貴大 室長 中尾 吉宏

(キーワード) 公共事業評価、評価手法、海外事例

3.

生産性革命 (i-Construction) の推進、賢く使う

1. はじめに

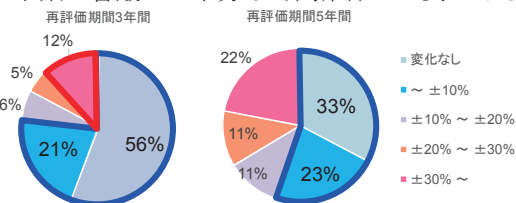
公共事業については、効率的な執行及び透明性の確保が重要なことから、新規採択時評価、再評価、及び事後評価による事業評価が実施されている。

国土交通省の公共事業評価手法研究委員会（2017年は5月、11月開催）は、社会資本整備審議会・交通政策審議会交通体系分科会計画部会専門小委員会の提言にある事後評価等の充実、及び現在の事業評価の状況等を踏まえた制度の改善を目的とした検討を進めており、国総研では改善案の検討に係る評価制度の現状分析及び海外の評価手法調査を行っている。

ここでは、国土交通省が実施している再評価の制度について現状を分析し、海外事例の調査結果も踏まえながら改善の方向性を検討した結果を示す。

2. 再評価の現状分析及び改善方向性の検討

国土交通省は1998年度より再評価を実施しており、2010年4月より評価サイクルを5年から3年に変更した。その結果、評価件数が219件/年（2006～2009）から347件/年（2010～2015）に増加した。再評価での事業費の変化に着目すると（図-1）、3年後の再評価では事業費の大きな変動がない事業が7割以上を占め、現在はこれらも再評価の対象である。一方、事業費の変化が30%を超えるものが1割以上あり、こうした事業の審議への十分な時間確保が必要である。



※事業評価カルテ検索より作成
※前回評価から3年後または5年後に再評価を実施した事業を集計
図-1 再評価期間別の事業費変化割合

この様な認識の下、制度改善の検討をすべく、海

外の再評価事例の調査を行った。その結果、カナダでは、実施中の事業について、評価項目にOn time（期間）、On budget（予算）、On scope（整備効果）の3つの重要業績指標を設定し、各項目について計画通りか否かの観点で赤、黄、緑の3段階で判定を行い、赤の場合には計画内容等の見直しを行う評価を実施していることが分かった。（表-1）

表-1 カナダ再評価事例 判定基準

	On Time	On Budget	On Scope
GREEN	現時点で承認された工期内に収まっており、事業の完了時期も守られる見込みである。	現時点までの支出額及び今後の支出予定額が、財務当局及び事業主体に承認された予算内に収まっている。	整備効果の見直しは想定内であり、プロジェクト全体への影響はない。
YELLOW	現時点で承認された工期内に収まっていないが、事業の完了時期は守られる見込みである。	現時点までの支出額は、計画の範囲内に収まっていないが、今後の支出予定額（リスクへの対応を含む）は、財務当局及び事業主体に承認された予算を超過しない。	整備効果が当初の見直しと比較して変化した場合、プロジェクト全体にマイナスの影響を与える可能性がある。
RED	現時点で承認された工期内に収まっておらず、事業の完了時期も守られない見込みである。	今後の支出予定額が、財務当局及び事業主体に承認された予算を超過している。	整備効果が当初の見直しと比較して変化した場合、プロジェクト全体にマイナスの影響を与える。

この制度には、再評価として重視すべき当初想定状況からの変化及び、その変化への対応方針の検討に向けた評価項目が的確に設定されている。

カナダの事例は、先に示した評価サイクルと評価件数の整理結果とともに、第2回公共事業評価手法研究委員会における中間取りまとめ案（方針案）の基礎資料として活用された。方針案では、On time、On budgetでの事業進捗の確認に向け、事業スケジュール及び総事業費等進捗状況を確認項目として、項目に大幅な変更が生じる場合には再評価を実施することや、再評価の実施サイクルへの言及があり、今後の重要な方向性との意見交換が委員会でなされた。

3. 成果の活用

研究の成果は、公共事業評価手法研究委員会等、今後の方針検討の資料として活用されている。

研究委員会の議論に向けて、今後も引き続き、評価手法等の調査を行い、制度の高度化に努めたい。